

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

## FF14 備忘ログ(PATCH2.3) メインクエスト



### メインクエスト その3

#### 立ち上がる意志 ～ エオルゼアの守護者

## 立ち上がる意志

タタル：私のことで、ご迷惑をおかけしました。……もう少しだけ、お時間ありますか？  
実は、◇◇◇さんの留守中、ドマの子どもたちが、あなたに会いたがっていたのです。  
声をかけてあげると、きっととっても喜びます！

ヨウザン：わあっ！ ねえちゃん、帰ってきてたんだな！  
聞いたぜ、「バンシン」っていう強い敵を、ねえちゃんが倒したんだろ！？ やっぱ、ねえちゃんはすげえなあ！  
オレたちも、ねえちゃんみたいになりたいくてさ…… ドマのみんなを守るソシキを作ったんだ。  
「ドマ冒険者団」さ！ ヨウザン：なあ、ねえちゃん、「ドマ冒険者団」に稽古をつけてくれよ！  
オレたち、はやく強くなりたいんだ！

????：おや、ずいぶん賑やかですね。

ヨウザン：あつ、ホーリー・ポルダー！ クルトウネも！

ホーリー・ポルダー：おつかれさまで、◆◆◆さん。……少し前に「暁」の一員として迎えていただきましたが、  
こうしてきちんとお話しするのは初めてですね。  
ホーリー・ポルダーとクルトウネ、ともに冒険者です。今は未熟ながら、ドマの子どもたちへの武術指南も受け持っています。

ヨウザン：もーっ、子どもたちじゃなくて、「ドマ冒険者団」って呼べて言ってるのにさ！  
……なあ、ホーリー・ポルダー。今日の稽古は、ねえちゃんにつけてもらっちゃダメかな？  
ねえちゃんに、実戦を覚えてもらいたいんだ！

ホーリー・ポルダー：ふむ、その心意気はいいですが、君たちと◆◆◆さんでは、力の差がありすぎる。実戦と呼べるものになるかどうか……。  
代わりに……そうですね、私が君たちの前で、◆◆◆さんと手合わせをするというのは？

クルトウネ：おいおい、それは単に、お前が◆◆◆さんと戦いたいだけだろう？

ホーリー・ポルダー：ははは……そうとも言いますがね。しかし、子どもたちにとっても、いい機会になるのは間違いないでしょう。  
どうでしょう、◆◆◆さん。私と、手合わせしてはいただけないでしょうか？



ヨウザン：わあっ、ホーリー・ポルダーが、ねえちゃんに「ゲコクジョウ」する気だぞっ！  
すげえ！ 「ドマ冒険者団」は今すぐ応援に出動っ！

クルトウネ：……簡単には負けれないな？

ホーリー・ポルダー：もちろんですと。子どもたちのためにも、このホーリー・ポルダー、全力を尽くしましょう。  
では、支度ができたら、レヴナンツトールの東へ。手合わせ、よろしくお願いします。

ホウザン：なんだか急に、静かになったな……。ひとが懸命に点検を進めてるっていうのに、みんなどこへ行っただ？

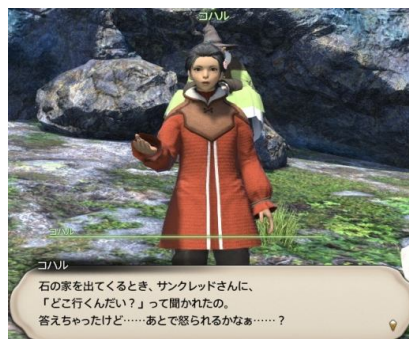
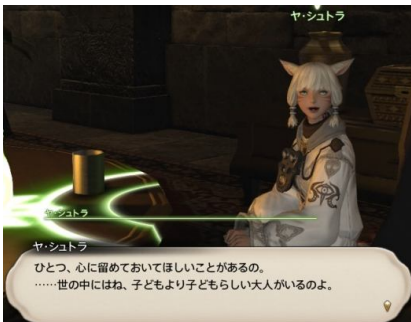
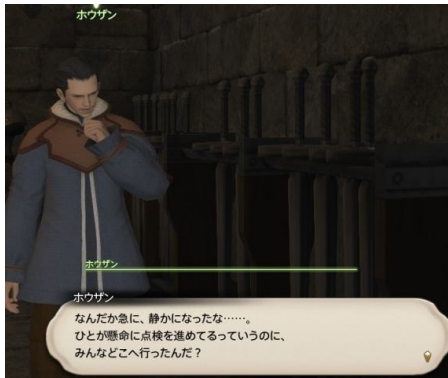
ヒギリ：フ・ラミンさんから、エオルゼアの歌をたくさん教えていただきました。毎日が、とても勉強になります。

フ・ラミン：ヒギリさんに伺ったのだけど、ドマの方にも、とても香りのいいお茶があったらしいの。  
どうにかして取り寄せられないものかしら……。

タタル：ヒギリさんが淹れてくれたお茶で、ひと休みなのでっす。彼女のお茶、とってもおいしいのでっす。

ヤ・シュトラ：ひとつ、心に留めておいてほしいことがあるの。……世の中にはね、子どもより子どもらしい大人がいるのよ。

ババリモ：君たちの話、まわりにも聞こえていたよ。そして今、イダとサンクレッドが飛び出していった。はぁ……後は頼むよ……。



**クルトウネ**：「暁」の一員として、あなたの英雄譚は耳にしてきました。しかし、活躍を直に拝見するのは、これからはじめて。子どもたちでなくとも、興奮するというものです。

**コナリ**：石の家を出てくるとき、サンクレッドさんに、「どこ行くんだい？」って聞かれたの。答えちゃったけど……あとで怒られるかなあ……？

**ヨウザン**：あつ、ねえちゃんが来た！ なあなあ、早く手合わせはじめようぜっ！

**ロッカ**：手合わせ……危なくないのかな……。おねえさんも、ホーリー・ボルダーも、怪我には気をつけてね……。

**シウン**：僕たちの師匠は、ドマにいた「お師匠様」だけなんだ。だからホーリー・ボルダーは「先生」だよ。……どっちも大好きだけどね！

**ホーリー・ボルダー**：よくぞいらしてくださいました。……手合わせの準備は、よろしいですか？  
……準備はよろしいようですね。では、さっそく手合わせをはじめましょう。



クルトウネ : ホーリー・ボルダー、本当にお前ひとりで戦うのか？ 相手はあの、◆◆◆さんだぞ？

ホーリー・ボルダー : ◆◆◆さんだからこそ、まずはひとりで挑ませてください。  
この方の活躍を知り、「晩」に入ることを決意した……。そして、この方を目標として努力してきたからこそ、今日の私があるのです。

クルトウネ : ……わかった。しかし、これは子どもたちの稽古もかねているんだ。すぐに終わってしまいそうであれば、私も加勢するからな。

???? : おーい、みんなーっ！

ホーリー・ボルダー : イ、イダさん！？ その方は、いったい！？

イダ : へへっ、面白い手合わせがあるっていうから、みんなにも声をかけてきたんだ。観客は多い方が盛り上がるでしょ！

サンクレッド : ああ、まだまだ来るぞ。◇◇◇の名前を出したら、お嬢さん方まで、悔しいくらいに食いついてきた……。妬けるぜ、この人気者！ 光の戦士として、きっちり勝利を収めてくれよ！

ヨウザン : ホーリー・ボルダーだって、オレたちの指南役なんだ。そう簡単には負けないぞ！

コハル : 頑張ってね、ホーリー・ボルダー！

ホーリー・ボルダー : それでは、いざ尋常に……勝負ッ！



白刃のホーリー・ボルダー : 鍛えぬいた、この力…… どこまで通用するか、試させてもらいます！

白刃のホーリー・ボルダー : くっ……さすがです……！ これが、激戦を越えてきた英雄の力……！

ロッカ : ホーリー・ボルダー、負けちゃうの……？

シウン : まだだ！ 僕たちの先生は、強いんだっ！

碩学のクルトウネ : 子どもたちの言うとおり。この戦い、終わらせてしまうにはまだ早い……。

碩学のクルトウネ : ここからは、私も参戦いたしましょうッ！ 立て、ホーリー・ボルダーッ！

碩学のクルトウネ : ここまでか……ッ！ さすが、我々が憧れた英雄……。

コハル : ああつ、また倒れそう……！

ヨウザン : やっぱり、ねえちゃんは強え……！ でも……気合見せろよ、ホーリー・ボルダーッ！

白刃のホーリー・ボルダー : ……そうだ……私はまだ、倒れるわけにはいかないッ！ ぬうおおおおおおッ！

白刃のホーリー・ボルダー : なんて……なんて強さだ……！ ですがこの戦い、一秒でも長く続けてみせましょう！

白刃のホーリー・ボルダー : 強大な敵にも、諦めずに挑む！ これもまた、あなたの生き様に見た「強さ」ですッ！

ホーリー・ボルダー : ハア……ハア……。やはり、あなたは強い……。悔しいですが……完敗です……！

ヨウザン : す……………  
すげえー……ッ！ ねえちゃん、めちゃくちゃ強えッ！

開拓団の男 : さすが、俺たちの英雄◆◆◆！ 「エオルゼアの守護者」は、こうでなくちゃな！

熟練の冒険者 : やっぱり、蛮神を相手取るような人は違うねえ。私も、あんたを目指して頑張るわ！



ヨウザン  
ずげえーっ！  
ねえちゃん、めっちゃくちゃ嬉し！



開拓団の男  
さすが、俺たちの英雄Led！  
「エオルゼアの守護者」は、こうでなくちゃな！



熟練の冒険者  
やっぱり、蛮神を相手取るような人は違うねえ。  
私も、あんたを目指して頑張るわ！

**アルフィノ**： 手合わせ、拝見させてもらったよ。君の戦いに立ち会うのは久々だったが…… 相変わらず、見事だな。これまで、君はその力で、多くの脅威を退けてきた。今の観客たちの笑顔…… それこそが、君が戦ってきた結果だろう。エオルゼアの守護者、か……。なるほど、君にふさわしい称号だ。

……君に初めて声をかけたときのことを、覚えているかい？ 「カルテノー戦没者追悼式典」でのことだ。あの頃、私はエオルゼアを見定めようとしていた。祖父レイゾフが、命をかけてまでこの地を守った理由…… それを探していたんだ。

……正直に言うと、最初は価値を見出せなかったよ。問題は山積みなのに、解決の算段がまるでついていない。愚かで、未熟な人々だと思った。

あの惨状を見れば、帝国の将「ガイウス」が掲げた思想に、心惹かれる者が出てもおかしくはなかっただろう……。結果的には、武力行使の強行策で、問題外だったわけだが。

エオルゼアを守ることこそ、祖父の遺志…… そう言い聞かせなければ、私はどこかで、この地に見切りをつけていたかもしれない。それを改めてくれたのは、君だ。

祖父が守ろうとしたのは、土地や歴史、国家ではなかった……。君や仲間たちとの活動が、本当の答えを教えてくれたのさ。エオルゼアの人々は、さまざまな問題に挫けながらも、明日を信じ……何度も、諦めずに立ち上がる。そうして踏み出される尊い一歩を、祖父は愛し、ともにしたいと願ったのではないだろうか。

……それは今や、私の願いでもある。

私もまた、エオルゼアの守護者となろう。この地に生きる、人のために……。

……とはいえ、各地で起きている問題を解決するには、今の「暁の血盟」の規模では、あまりに小さすぎる。本来の目的である蛮神問題、そしてアシエンに注力するためにも、国という境界にとらわれず行動できる、さらなる組織が必要となるだろう。

その組織を設立するため、君も力を貸してくれないか？ ……詳しくは「石の家」で話そう。



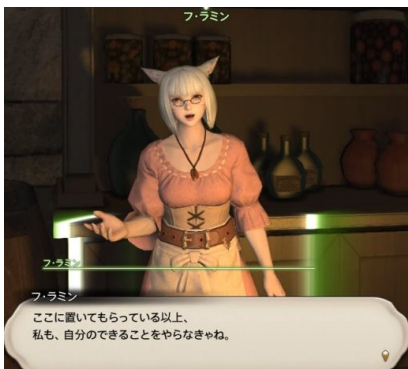
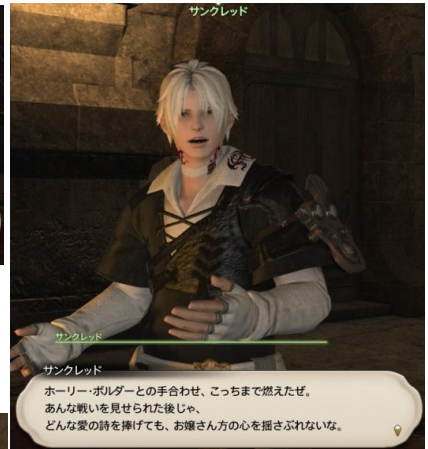
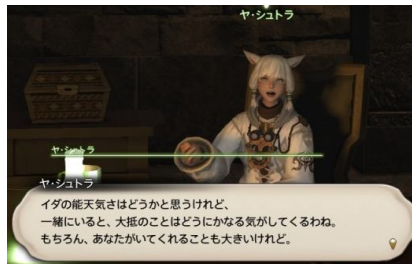
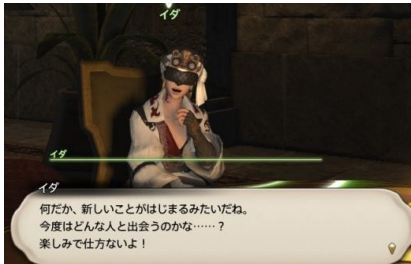
アルフィノ  
それを改めてくれたのは、君だ。



イダ： 何だか、新しいことがはじまるみたいだね。今度はどんな人と出会うのかな……？ 楽しみで仕方ないよ！

ヤ・シュトラ： イダの能天気さはどうかと思うけれど、一緒にいると、大抵のことはどうにかなる気がしてくるわね。もちろん、あなたがいてくれることも大きいけれど。

サンクレッド： ホーリー・ボルダーとの手合わせ、こっちまで燃えたぜ。あんな戦いを見せられた後じゃ、どんな愛の詩を捧げても、お嬢さん方の心を揺さぶれないな。



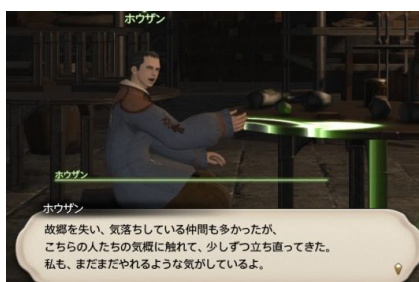
パバリモ： まったく、イダは前向きすぎるよ。問題だって山積みだっていうのに……。

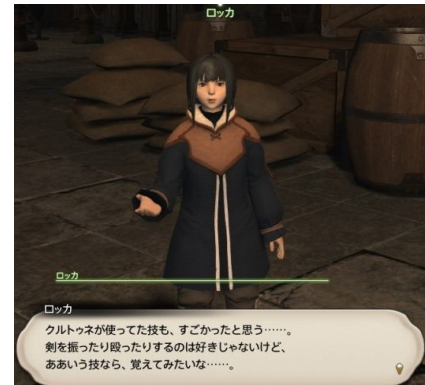
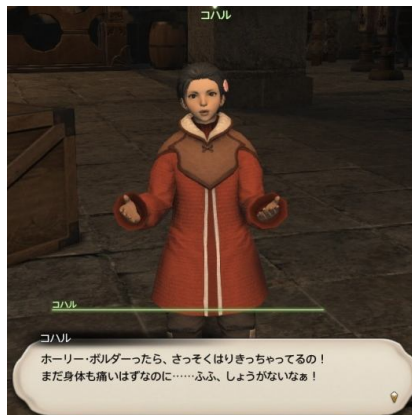
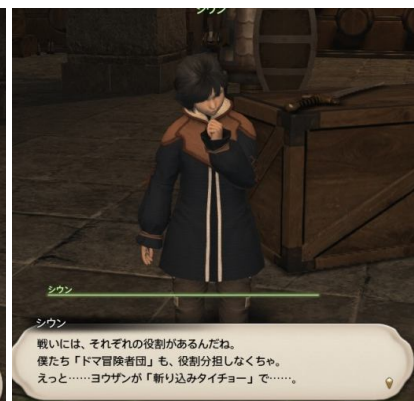
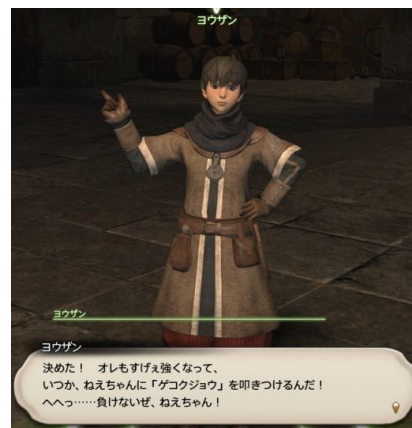
タタル： あわわ……とっても忙しくなってきたです……！ お話なら、あとにしてみてもいいですか？

ドウフレ： ドマの農耕技術を、開拓に応用してもらったが…… 効果のほどはあっただろうか？

フ・ラミン： ここに置いてもらっている以上、私も、自分のできることをやらなきゃね。

ヒギリ： みなさん、にわかに忙しくなってきたようです。一息ついていただくために、お茶を淹れますね。





**ヨウザン**： 故郷を失い、気落ちしている仲間も多かったが、こちらの人たちの気概に触れて、少しずつ立ち直ってきた。  
私も、まだまだやれるような気がしているよ。

**クルトウネ**： 今回ばかりは、私も熱くならずにはいられませんでした。……もっと強くなってみせますよ、私たちも。

**ホーリー・ボルダー**： ◆◆◆さん！ 手合わせの件は、本当にありがとうございました。  
やはり、あなたはとても強かった……！ この経験を胸に刻み、己の鍛錬や子どもたちへの指南に、  
いっそう磨きをかけていきましょう。

**ヨウザン**： ホーリー・ボルダーもかっこよかったけど、やっぱり最強はねえちゃんだな！  
決めた！ オレもすげえ強くなって、いつか、ねえちゃんに「ゲコクジョウ」を叩きつけるんだ！  
へっ……負けないうぜ、ねえちゃん！

**シウン**： 戦いには、それぞれの役割があるんだね。僕たち「ドマ冒険者団」も、役割分担しなくちゃ。  
えっと……ヨウザンが「斬り込みタイチョー」で……。

**コバル**： ホーリー・ボルダーったら、さっそくはりきっちゃってるの！ まだ身体も痛いはずなのに……ふふ、しょうがないなあ！

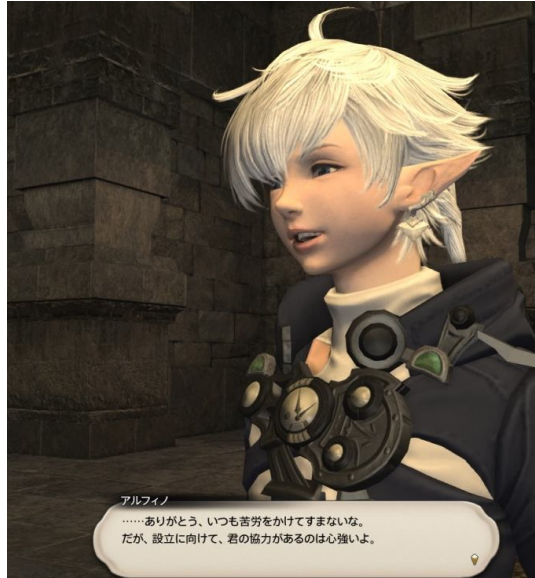
**ロッカ**： クルトウネが使ってた技も、すごかったと思う……。剣を振ったり殴ったりするのは好きじゃないけど、  
ああいう技なら、覚えてみたい……。あ

**ミンフィリア**： 主要な蛮神を討伐し、アセン消滅の手がかりを掴んだ……。新しい試みを進めるには、今が好機よ。  
アルフィノは、ずっと温めてきた計画を成就させるため、ほかでもない、あなたの力を借りたがっているわ。  
ぜひ、彼に協力してあげて。

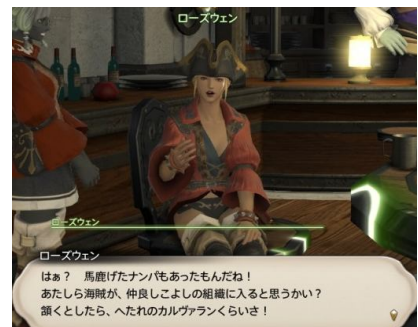
**アルフィノ**： 来てくれて感謝するよ。これから世界は大きく動く……。私たちは、その先駆けとなる一歩を踏み出すんだ。  
さあ、新組織の話をはじめよう。グランドカンパニー「エオルゼア」……。その、先行組織の話だ。

## 先行統一組織

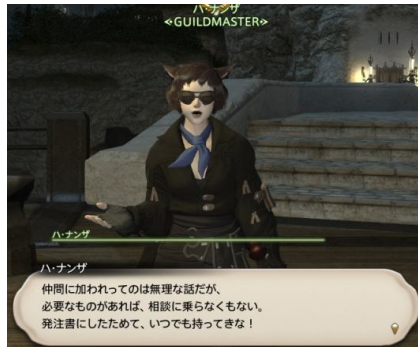
アルフィノ： さて……。まずは君に、グランドカンパニー「エオルゼア」について、伝えておかねばならないな。  
以前にも話したことがあったと思うが……。 第七星暦に入ってから、三国の盟主たちは、  
「エオルゼア統一組織」を設立しようと協議を続けている。  
それが、グランドカンパニー「エオルゼア」さ。一国では解決できない蛮神や帝国の問題に、  
エオルゼア全体の力をもって挑む……。そのための組織だよ。  
しかし、その大義名分を前にしても、三国間の協議は難航しててね……。  
このままでは、統一の志そのものが挫けかねない。そう感じた私は、「エオルゼア」設立の足がかりとして、  
「先行統一組織」を作らないかと提案を続けていたんだ。  
いわば、グランドカンパニー「エオルゼア」の縮小版さ。小規模ながら、国という境界を越えて活動する新組織……。  
人々にとって、いい刺激となると思わないかい？  
私はその先行統一組織を、「暁の血盟」主導のもと、設立したいんだ。  
今や「暁」は、名実ともに、エオルゼア救済の担い手だ。  
……。しかし、君も先の難民暴動を見ただろう。「暁」が対応できる問題には、限りがある。  
そこで、先行統一組織を「暁」の下につけることで、君や賢人たちへの負担を増やすことなく、  
より多くの問題の解決にあたりたいと考えているんだ。  
グランドカンパニー「エオルゼア」が成そうとすることも、「暁」の救済活動も、目指す未来は同じはず……。  
ミンフィリアや、三国の盟主たちも、この提案に理解を示してくれている。あとは、盟主たちの最終承認を得るばかりだ。  
そのために、これから三国をまわろうと思っていてね。……。君も同行して、先行統一組織に加わる人材を、  
集めてはもらえないだろうか？  
……。ありがとう、いつも苦勞をかけてすまないな。だが、設立に向けて、君の協力があるのは心強いよ。  
では、まずはリムサ・ロミンサへ。「ブルワークホール」のあたりで落ち合おう。



アルフィノ： 来てくれたか。私はこれより、メルウィブ提督を訪ね、先行統一組織についての最終承認を得てくる。  
その間、君にはこのリムサ・ロミンサで、先行統一組織に加わる人材を集めてほしいんだ。  
すでに募集はかけているが、まだ組織のことを知らない人も多いようだからね……。  
そこを、君の見立てで勧誘してほしい。  
志をともにできれば、別の組織に加入していても構わないよ。手当たり次第というものなんだから、  
「上甲板層」で勧誘をしてみてくださいないか？  
用件が終わったら、ランディングで合流しよう。……。では、よろしく頼むぞ。







**レイナー**：先行統一組織か……。そういった組織が設立されることは、噂に聞いているよ。しかし、私はイエロージャケットを預かる身だ。リムサ・ロミンサの民を守るため、ここを離れるつもりはない。

**カルヴァラン**：ほう……。先行統一組織とは、なかなか面白い試みですね。……しかし、しばらくは様子見とさせていただきます。時流を読むのは、我々「百鬼夜行」の得意とするところ。今はまだ、手出しする時期ではないようです。

**ローズウェン**：はあ？ 馬鹿げたナンパもあったもんだね！ あたしら海賊が、仲良しこよしの組織に入ると思うかい？ 額くとしたら、へたれのカルヴァランくらいさ！

**ハ・ナンザ**：先行統一組織ねえ……。そのバカでかい心意気は嫌いじゃないが、社長とギルドマスターの兼任ってのは、結構忙しいのさ。仲間に加わってのは無理な話だが、必要なものがあれば、相談に乗らなくもない。発注書にしたためて、いつでも持ってきた！

**リオル**：おっ、◇◇◇じゃないか！ 蛮神「タイタン」に挑もうっていうお前に、蛮風エーテライトを教えた俺のこと、忘れちゃいないよな？ そう、ブロンズレイクのミツ笛、元海雄旅団のリオル様さ！ いやあ〜、久しぶりだなあ！ たまにはリムサ・ロミンサまで飲みに来てみるもんだ。……なに、先行統一組織？ へえ、また面白そうなことやってんじゃないか。いいぜ、参加するよ。海雄旅団は解散したが、俺はまだまだ現役だぜ？ 五傑衆が認めたお前のために、ひと肌ぬいでやるよ！

**アルフィノ**：お疲れさま、勧誘の首尾はどうだい？ このリムサ・ロミンサは、荒くれ者が集う都市……面白い人材が見つかったのではないかな？ ほう、あの「海雄旅団」の出身者を勧誘するとはね。……なるほど、君だから誘えた相手というわけか。こちら、メルウィップ提督から最終承認を得ることができた。次は、グリダニアのカヌ・工様だ。「豊穡神祭壇」のあたりで落ち合おう。

**アルフィノ**：よし……私はさっそく、カヌ・工様の元へ向かう。君は、リムサ・ロミンサのときと同じように、先行統一組織への勧誘を頼む。今回は、ここ「旧市街」で、同志を募ってみるとしよう。用件が終わり次第、ランディングで合流だ。

**ローレンティス**：あつ、君は……！ なんてこった、晴れて釈放されたっていうのに、最初に見るのが君の顔だなんて！ ……あれ？ わかんないって顔してるな。ほら、僕だよ、ローレンティス。君にぶちのめされた、バスカロンドラザースの常連の……。

**思い出した！**

**……誰？**

て、帝国に物資を横流ししたことを知られて、君と密猟者にボッコボコにされた僕だよ！ ……ああもう、言わせるなって！

**………。**

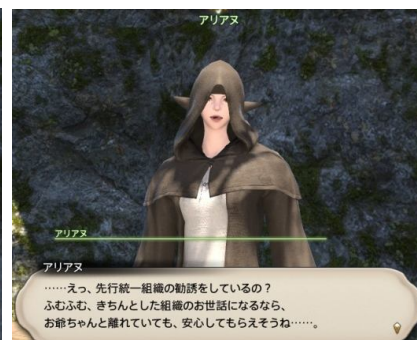
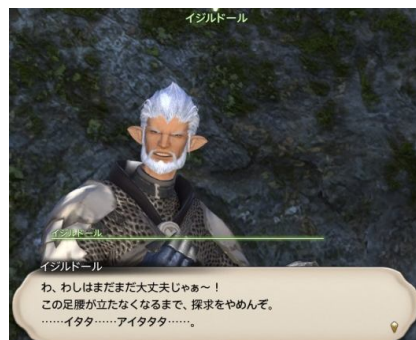
まあ、それはともかくとして……。君はこんなところで何をしているんだい？ ふうん、先行統一組織。……悪くなさそうだが、僕も参加させてくれないか？ まあ、その、なんだ……。鬼哭隊はクビになったし、僕にできることを探しがてら、協力してもいいと思ったのさ。集合場所は？ レヴナンツツール？ いいだろう、バスカロンの親父への義理立てもあるし、今度こそ正義のために戦おうじゃないかっ！

**イジルドール**：わ、わしはまだまだ大丈夫じゃあ〜！ この足腰が立たなくなるまで、探求をやめんぞ。……イタタ……アイタタ……。

**アリアス**：お爺ちゃん、さすがにもう限界だよ！ 腰の具合が悪化しちゃう前に、お婆ちゃんのところへ戻ろうってば！ ……あら？ もしかして、◆◆◆さん？ ずいぶん前だけど、サスタシャ浸食洞やタムタラの墓所で、あなたを見かけたことがあるのよ。あのときは、いかにも駆け出し冒険者って感じだったけど…… 「漆黒の王狼」を討ったのがあなただって、ミューヌさんから聞いたときは驚いたわ！ ……えっ、先行統一組織の勧誘をしているの？ ふむふむ、きちんとした組織のお世話になるなら、お爺ちゃんと離れていても、安心してもらえそうね……。決めた、わたしも参加させて！ たくさんの冒険でつちかった技、生かせると思うの。お爺ちゃんを実家に送り届けたら、合流するわね！

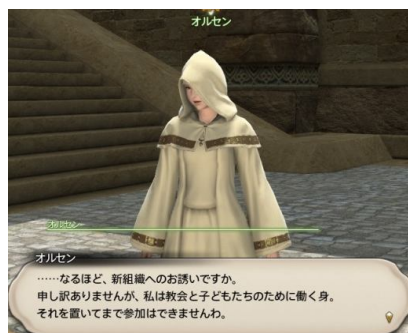
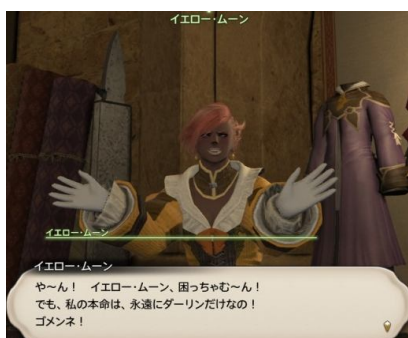
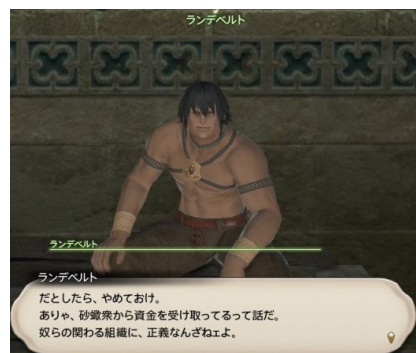
**ウルサンデル**：……わたくしを、新組織に誘ってくださるのですか？ ああ……この老いた身には、過ぎたる幸福にございます。しかし、古い先短い命が尽きるまで、この地でお嬢様の罪に添うと誓っているのです……。どうか、お断りする非礼をお許しくさいませ。

**セイングレッド**：先行統一組織の志には共感できるが、活動内容が具体性に欠けるな……。そこがはっきりしない限り、参加するつもりはない。



**アルフィノ**： ああ、こちらは無事に、カヌ・工様の最終承認を得られたよ。……その様子だと、君の方も収獲があったようだね。元鬼哭隊の隊士に、経験を積んだ冒険者が……。ふむ、どちらも武の心得はありそうだ。悪くないな……。よし、この勢いで、ウルダルへ行こう。そこで最終承認と人材を得られれば、旅の目的は達成だ。「ロイヤル・ブロムナード」で落ち合おう。

**アルフィノ**： いよいよ、ここで最後だな……。ナナモ陛下の最終承認、なんととしてでも得るとしよう。君も、例によって勧誘をすすめてくれ。場所は、この「ザル回廊」がいいだろう。階下を中心に、ともに未来を担う同志を集めてほしい。今回の合流場所は、ここロイヤル・ブロムナードだ。……では、お互いに健闘を。





**ウィルレッド** : あっ……お前、リトルアラミゴに来た冒険者だよな？ オレたちをそそのかした「仮面の男」を追ってきた……。……あのときは、手間をかけたな。アマルジャ軍に追われていたオレたちを助けてくれたこと、今でも……感謝してるよ。あの後、オレ、いろいろ考えたんだ。祖国アラミゴのこと、よそ者なのに助けてくれたお前のこと……。それで、見識を広げるための旅に出ることにした。……先行統一組織？ 国の境なく、人と人が助け合う……。本気か……。なあ、オレもその組織に入れてくれ。その理想がどうなるか、見届けたいんだ。オレはもう弱くない……役に立ってみせるさ！

**ランドバルト** : 聞いたぜ……。例の商人、殺されたんだってな。あいつも所詮、利用される側だったってことか……。……何？ 先行統一組織？ 噂くらいは聞いているが、あんた、まさか関わってるのか？ だとしたら、やめておけ。ありや、砂蠟衆から資金を受け取ってるって話だ。奴らの関わる組織に、正義なんざねえよ。

**シントゴート** : 国の境を持たない組織ねえ……。自分も苦しいってのに、隣国の面倒まで背負い込むのか？ わからねえなあ……。

**イエロー・ムーン** : えっ、私の力が必要なの？ やだ〜、これってもしかして、こ・く・は・く？ や〜ん！ イエロー・ムーン、困っちゃむ〜ん！ でも、私の本命は、永遠にダーリンだけなの！ ゴメンネ！

**オルセン** : あら、あなたは以前、危ないところを助けてくださった……。お久しぶりです、聖アダマ・ランダム教会のオルセンです。ドライボーンの貧民をそそのかした、あの偽司祭騒動……。顛末を聞き、ずっとお礼を言いたいと思っていたのです。今日もサン……サントレットさん？ と、何かの調査ですか？ ……なるほど、新組織へのお願いですか。申し訳ありませんが、私は教会と子どもたちのために働く身。それを置いてまで参加はできませんわ。

**アルフィノ** : お疲れさま。ひととおり、声をかけ終えたかい？ ふむ……。賛同の意を示したのは、アラミゴ人の若者だけか。十分な人数とは言いがたいが、出だしとしてはまずまずだ。今は、霊災が開けたばかりの困難な時代……。 「エオルゼアの救済」という理想を語ったところで、雲を掴むような話だと感じる者が多いだろう。……だが、立ち上がった者が、確かにいる。君が戦い、得てきた勝利が、人々に希望という力をもたらしたんだ。ありがとう、◆◆◆。先行統一組織の設立者として、君のつないだ縁を、大事に預らせてもらう。こちら、ナナモ陛下から、最終承認を得ることができた。これで、三国すべての承認を得たことになる……。第一歩を踏み出すだけの人材も集まってきたし、財政面での準備もぬかりない。いよいよ、組織の発足に踏み出せそうだ。……ああ、砂蠟衆からの資金提供について案じているのか？ それなら問題はないよ。よく調査した上で、信頼できる口から提供を受けている。さすがに、この規模ともなると、ルヴェユール家の資産だけでは干上がるから……。先行統一組織は、まだまだこれからだ。当面は、よからぬ噂をされたり、不安にも思われるだろう。しかし、地道に活躍し、実績を示し続けていけば、必ず、人々からの信頼を得られるはずだ。……そのために、ぐずぐずしている暇はないぞ。さあ、石の家に戻って、設立へ踏み出そう！

**ナナモ・ウル・ナモ** : ラウバーン。アルフィノの動き、あれをどう思う。

**ラウバーン** : グランドカンパニー「エオルゼア」に向けた第一歩として、先行統一組織を設立するという話ですか。アルデマウェボンという共通の敵の前に、まとまりかけていた統一グランドカンパニーの話も、遅々として進んでおりませんからな。さまざまな問題を抱える現状を考慮すれば、アルフィノ殿が先導し、再びきっかけを作ったことは、喜ばしいことではありませんか。

**ナナモ・ウル・ナモ** : 表で協力を謳いながら、裏では争いを続けている。……どの国もウルダハと同じか。ラウバーン。わらわは、あの組織をあまり良く思っておらんじや。あれには、各国のグランドカンパニーの精鋭たちも参加し、武力に特化した組織となっておろう。「暁」の管理下とはいえ、危険ではなからうか。それにな、あの組織の設立に、砂蠟衆から資金提供があったことが気がかりなのじや。いつ、やつらの私兵となるやもしれん。



**ラウバーン** : しかしながら、ナナモ様。我らは「暁」に、蛮神問題を肩代わりさせてきました。戦力増強を求める彼らの声を、無視することもできますまい。加えて、資金提供は砂蠟衆のみにあらず、件の砂蠟衆からの資金も、口ロリトラを通していない、きれいな金です。それに、あの冒険者がいる「暁」なのです。間違った方向に走ることはないでしょう。



ナナモ・ウル・ナモ : そう、あの者たちならばな。  
しかし、人は移ろいゆくもの……。その気はなくとも、時の流れは人の意志すら動かすのじゃ。荒野に舞う砂塵のようにな……。  
……テレジ・アデレジの件、いかようにもならぬのか。

ラウバーン : いろいろと手は尽くしましたが、今のこのウルダハに、奴を捕まえねばならぬ法がございません……。  
無理に捕らえれば、それこそ奴の思う壺……これでは……。

ナナモ・ウル・ナモ : 奴がしでかしたことは明確なのに、捕まえることもできぬのか！  
何が国家か！ 何が王家か！ わらわは、なぜこうも無力なのじゃ……！

ラウバーン : ナナモ様……。



アルフィノ : ふう……。一度に三国をまわるのは、さすがにこたえるな……。  
だが、あとは設立の宣言を残すのみだ。私はさっそく、その準備にとりかかろうと思う。協力に感謝する。  
「暁」側も忙しくなるだろう。君は、ミンフィリアに協力してやってくれ。

## ざわめく街角

ミンフィリア : アルフィノのお手伝い、ご苦労さま。「暁」に協力してくれる組織ができるのは、わたしとしても心強いわ。  
設立宣言は、石の家で行うそうよ。タタルさんが準備を進めているけれど、それが終わるまで、  
志願者たちはレヴナンツツールで待機しているの。  
急に人が増えて、混乱が起きているかもしれないわね……。「スラフボーン」さんのところへ行って、  
困ったことがないか聞いてくれるかしら？

アルフィノ : かつて私の祖父は、「救世詩盟」という組織を率いて、予言詩に記された霊災から、エオルゼアを守ろうとした。  
「救世詩盟」は、知の集積によって、よりよい未来を導こうという組織だったらしい。  
方法こそ違えど、統一組織にも通じるものがあるだろう？

スラフボーン : おお、どうした？ 何やら新組織ができるとかで、忙しいんだろう。  
はっはっは！ この程度の人数が増えたところで、そうは困らんよ。むしろ、いつもより活気があっていいくらいだ。  
……だが、気遣いには感謝する。新組織は「暁」の下につくというから、お前の負担が少しでも減ることを願っているよ。

???? : スラフボーンさん！ た、た、大変ですっ！



スラフボーン：開拓団の……物資輸送隊か！ その傷は、いったいどうしたことだ！？

ギルド本部の冒険者：そ、それが……。私たちは、開拓団宛の支援物資を預かって、レヴナンツトールまで運んでくる予定だったんです。けれど、モードゥナに入る手前…… クルザスの地で、異端者らしき集団に強襲されました。どうにか逃げ出してきたものの、物資は……。ごめんなさい、物資はすべて、異端者に奪われてしまったんです……ッ！

スラフボーン：……事情はわかった。まずは、お前たちが無事で何よりだ。人を呼ぶから、手当てを受けるといい。問題は支援物資だが……。物資が異端者の手に渡ったとなれば、開拓団だけの問題ではなくなるな。イシュガルドにも、連絡が必要かもしれない……。奪われた支援物資は、どこからのものだ？

ギルド本部の冒険者：イシュガルドのフォルタン家……。キャンプ・ドラゴンヘッドから運んできた物資です！

スラフボーン：なるほど……。ならばなおさら、連絡しないわけにはいかないな。◆◆◆、お前はたしか、フォルタン家の騎士とも親交があったな。かの地へは、開拓団から今すぐ伝令を送る。その上で、お前も現地に赴き、力を貸してやってはくれないか？ お前が忙しいのは重々承知している……。だが、ハンパ者を送って被害が広まりでもしたら、イシュガルドとの関係が悪化しかねないのだ。頼まれてくれるか、ありがたい。……では、さっそくキャンプ・ドラゴンヘッドへ。キャンプを預かる「オルシュファン」卿を訪ねてくれ。

オルシュファン：おおお、◇◇◇ではないか！ どうした、さらに強靱になった肉体を、私に披露してきたのか！？ ……違う？ ………………本当に？ ふむ、ならば仕方あるまい。その顔を見れば、重要な用件だということはわかる。盟友たるこのオルシュファンに、何なりと言うがいい。

## 風霜にわかに

オルシュファン：……なるほど、開拓団の件で訪ねてきたのだな。皆まで言うな、それだけわかれば十分だ。ふふ……開拓団……！ 実に肉躍るたくましい響きではないか。しかもお前が参加しているとあらば、なおのこと……イイ！



モードゥナに一大拠点が築かれれば、かの地の帝国軍も、クルザスへ介入しづらくなるだろう。加えて、お前には個人的な恩もある……。これに協力しない道理はないと、本家に掛け合って、支援物資を手配したのだから。よりにもよって、異端者に奪取されるとは……。……実は最近、クルザスを根城とする異端者が組織化され、いささか手を焼いているのだ。異端者の頭目は「氷の巫女」と呼ばれる女……。我々も調査を続けているが、本名すら暴けていない。異端者たちは、その「氷の巫女」を聖女のように敬い、死も厭わずに行動しているようだな……。

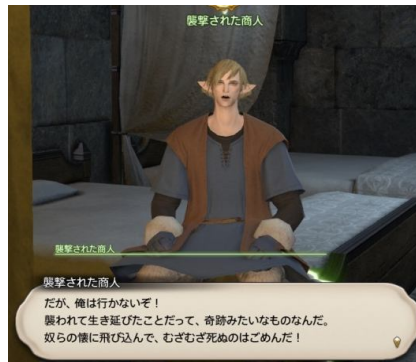


オルシュファン： やつらによる組織的な犯行が増えつつあるのだ。  
今のところ、このキャンプへの実害は少ないが、ここより西方では、度々奴らが目撃されているらしい。  
ホワイトブリム前哨地ならば、情報が掴めるかもしれないぞ。……行ってみるか？  
そうかそうか！ 支援物資の件は遺憾だが……期せずして、お前の汗が…… 再びこの雪原にきらめく日がきたようだな！  
お前は以前よりも強靱になった。そして、額きひとつからあふれる、その揺るぎなき自信……  
イイぞ……ますます活躍から目が離せん！  
何かわかったら、是非私にも報せてくれ。ふふ……この辺りは一段と冷えるからな、温かい床を用意して待っているぞ！



オルシュファン： ホワイトブリム前哨地の近辺では、異端者の姿が度々目撃されているらしい。彼の地の「ドリユモン」卿を訪ねてみてはどうだ？

ドリユモン： 貴公が、先の奪還作戦では世話になったな。ストーンヴィジルの修繕には、徐々に着手しはじめている。  
……だが、その進捗を聞きにきたわけではあるまい？  
……なるほど、物資を奪った異端者を追っていると。貴公は、よくよく異端者に因縁のある冒険者だな。  
確かに、この前哨地周辺では、異端者の襲撃による被害が深刻化している。  
我々も対策は立てているが、手を焼いていると言わざるを得ない……。  
奴らの変化は、単に組織化したというだけではないのだ。  
「氷の巫女」という指導者を得たせいか、異端者たちは、更なる妄執にとりつかれ、我を失っているようにさえ見える。  
得体の知れない、奇妙な変化だ……。  
……先ほども、前哨地周辺で商人が襲われた。すでに警備隊を編成し、周辺の警戒にあたらせているが、  
貴公も調査するというなら止めはしない。  
襲撃を受けた商人が、野戦病院で保護されているはずだ。目を覚ましていたら、情報のひとつも聞きだせるだろう。

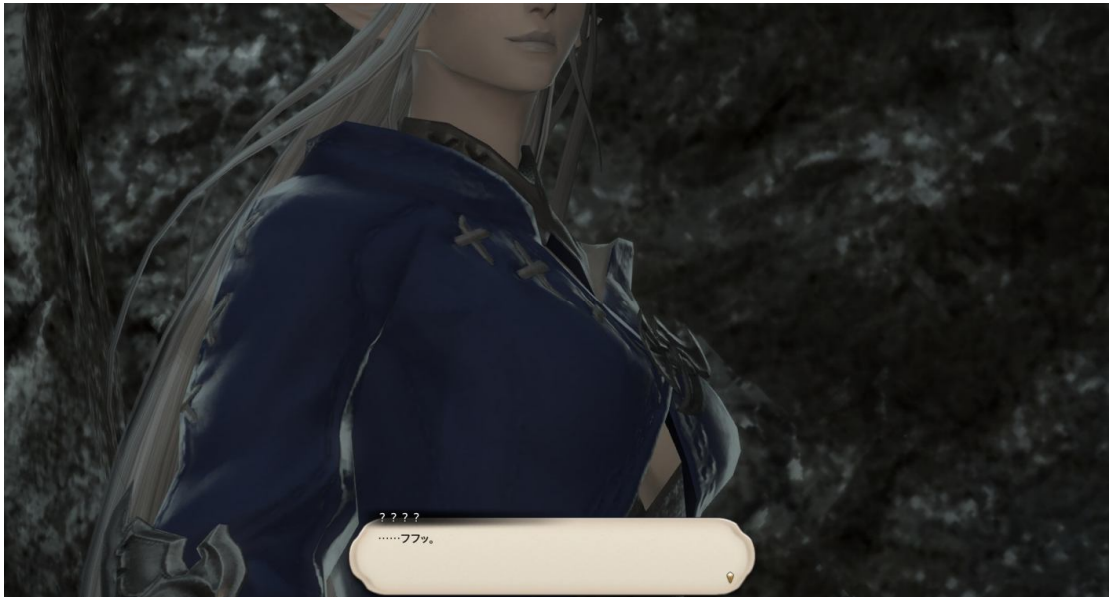


襲撃された商人： ……ああそうさ、俺が異端者に襲われた商人だよ。くそっ、何もかも台無しだ！  
この前哨地に来る途中、異端者の集団に襲われて、抵抗する間もなく、のされちまったんだ……。  
気がついたときには、もう病院さ。都で仕入れたクリスタルや武具……  
大事な商品はすべて、異端者に持ち去られたんだ。  
……気を失う直前に、異端者が「氷壁」と言ったのを聞いた。恐らく「スノークローク大氷壁」のことだろう。  
奪われた荷物も、そこにあるのかもしれない……。  
だが、俺は行かないぞ！ 襲われて生き延びたことだって、奇跡みたいなものなんだ。  
奴らの懐に飛び込んで、むざむざ死ぬのはごめんだ！

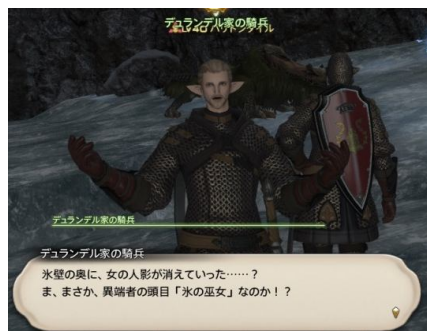


デュランデル家の騎兵： 貴方は……！ 以前、異端者の排除に協力してくださった冒険者ですね。まさか、協力をきてくださったのですか？ 私たちは、ドリユモン様から周辺警備を任された部隊です。巡回中に異端者らしき集団を発見し、ここまで追撃してきたのですが、姿を見失いました……。しかし、ここは「スノークロック大氷壁」です。氷の絶壁でふさがれた袋小路だというのに、連中は、いったい、どこへ消えたのでしょうか……。

????： ……フフッ。

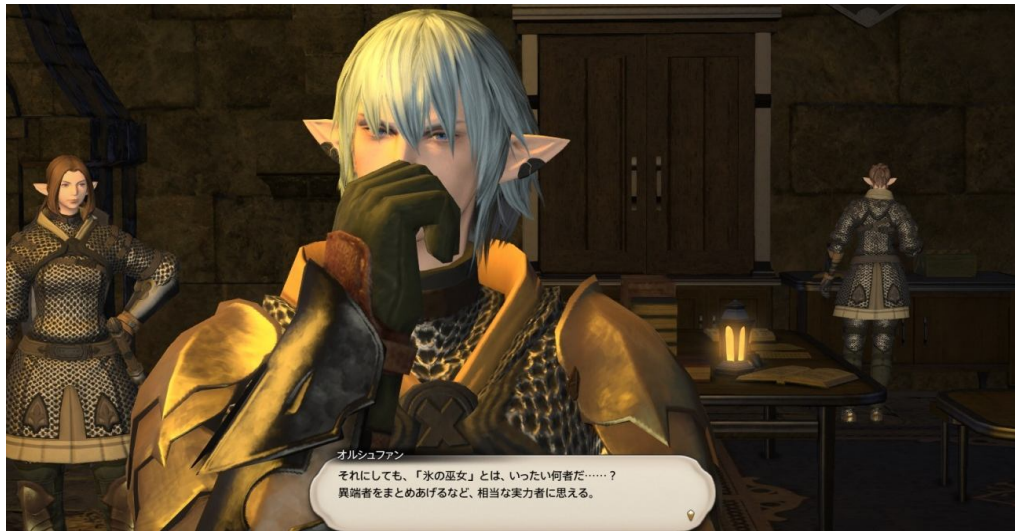


デュランデル家の騎兵： 氷壁の奥に、女の人影が消えていった……。ま、まさか、異端者の頭目「氷の巫女」なのか！？ だとすれば、スノークロック大氷壁のどこかに、異端者のみがる抜け道があるのかもしれない。追ってきた我々を、待ち伏せしている可能性もある……。兵が欠けた現状で、深い危険です。一度、前哨地に戻り、ドリユモン様にお伺いを立てましょう。



ドリユモン： よく戻ったな。スノークロック大氷壁でのことは、部下から報告を受けている。被害を受けたのは、精鋭ぞろいの部隊であった。それが後れをとったとあらば、より慎重に、異端者対策にあたる必要がある……。開拓団から奪われたという支援物資について、奪還に向かいたい気持ちはあろう。だが、策なく追うのは愚の骨頂……今はこらえてほしい。貴公は、キャンブ・ドラゴンヘッドに戻るのだ。そして「オルシュファン」卿に、そちらも警戒するようにと伝えてくれ。豹変した異端者……そして「氷の巫女」……。必ずや、その素性をつきとめてくれる！

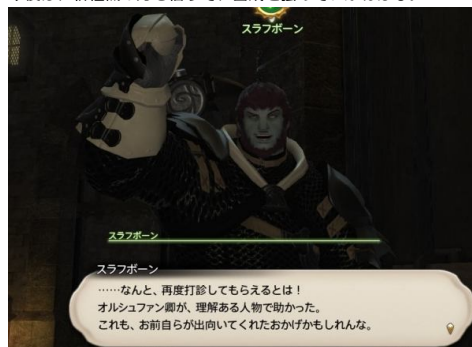
オルシュファン： ああ、いいところに戻ってくれた。ちょうどお前の戦いぶりに、想いを馳せていたのだ。一撃を繰る際の肉体のしなりなど……とてもイイ……。時が許せばサシで向き合い、稽古をつけてもらいたいが…… まずは、報告を聞かねばな。「氷の巫女」について、何か情報を得ることはできたか？ ……ふむ。スノークロック大氷壁で、そのようなことが。あの辺りは、クルザス中央高地の中でも、気候変化の影響が色濃く現れた場所だ。そのため、未だ一帯の全容は明らかになっていない。異端者にとっては、良い隠れ家かもしれない。一度、早速に調査するよう進言すべきか……。それにしても、「氷の巫女」とは、いったい何者だ……。異端者をまとめあげるなど、相当な実力者に思える。お前とともに追ってみるのも一興だが、現状では危険が過ぎるか……。教皇庁の神殿騎士にも連絡し、対策を願おう。新任の神殿騎士団長は、なかなか話のわかる人物だという。きっと、適切な判断をされることだろう。イイ情報を持ち帰ってくれた、感謝するぞ。お前は本当に真摯に働く……。それが真実を呼ぶのだと、友として誇りに思う。支援物資については、本家に再度掛け合っているところだ。準備ができ次第、そちらに贈るとしよう。熱気にあふれる……イイ街になることを願ってな！



オルシュファン  
それにしても、「氷の巫女」とは、いったい何者だ……？  
異端者をまとめあげるなど、相当な実力者に思える。

オルシュファン： 支援物資の件は気にするなと、開拓団に伝えてくれ。もっとも、お前がここに残ってくれるというならば、喜んでほかの伝令を送るがな？

スラフボーン： おお、戻ったか！ すまないな、クルザスは寒かっただろう。……それで、支援物資の件はどうなった？  
……なんと、再度打診してもらえるとは！ オルシュファン卿が、理解ある人物で助かった。  
これも、お前自らが出向してくれたおかげかもしれないな。  
レヴナツツールに人や物が集まるにつれ、つけこもうとする輩も増えるだろう。  
今後は、新組織の力も借りて、警戒を強めていかねばな。



スラフボーン  
スラフボーン  
……なんと、再度打診してもらえるとは！  
オルシュファン卿が、理解ある人物で助かった。  
これも、お前自らが出向してくれたおかげかもしれないな。

## エオルゼアの守護者

スラフボーン： お前がクルザスに行っている間に、設立宣言の準備は、かなり進んだようだぞ。……だが、まだタタルが忙しそうにしていたな。こちらは、もう十分にお前の力を借りた。石の家に戻り、「タタル」を手伝ってやってくれ。

タタル： はわわわ……アレをこっちで、コレをそっちで……。もー、まとめてほしいとしちゃいたいです！  
はっ！ な、何かご用ですか！？ ……私のお手伝いです？ わーい、ありがとうございます！  
では、レヴナツツールで待機している志願者たちに、この「群青の制服」を渡してもらえますか？  
先行統一組織の一員である証です！  
それが行き渡れば、準備はだいたい整いますので、配り終わったらアルフィノさんに報告してほしいです。  
それにしても、おそろいの制服ですか……。お金のある組織は、羽振りが違うのです！

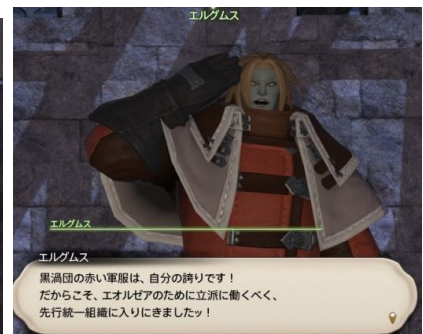
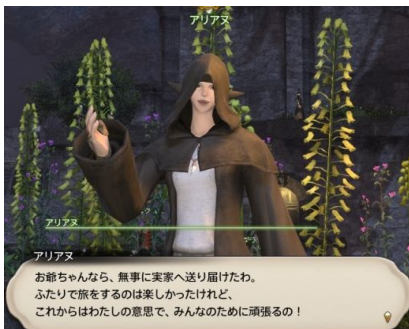


タタル  
タタル  
では、レヴナツツールで待機している志願者たちに、  
この「群青の制服」を渡してもらえますか？  
先行統一組織の一員である証です！

ユウハセ : この先行統一組織、儲からないっていう奴は浅はかです。情けは人のためならず…… そう思って、志願者になりました。制服とは、なかなか名案です。組織が名をあげたら、この制服のレプリカを作って、荒稼ぎしたいものです。

ウィルレッド : 驚いた……モードゥナは貧しい土地なのに、どうしてこんなに活気があるんだ？ リトルアラミゴとは、全然違う。……ずいぶん布地が多い服だな。わかったよ、これを着て石の家へ行く。

リオル : おっと、俺を探してたのか？ なんなら前みたいに、口笛で呼んでくれてもいいいんだぜ？ ここは少し騒がしいけどな！ うっひゃあ、きちんとした制服！ こんなもん着たら、息が詰まっちゃいそうだ！ ……ま、とにかく着てみるさ。



アリアヌ : お爺ちゃんなら、無事に実家へ送り届けたいわ。ふたりで旅するのは楽しかったけれど、これからはわたしの意思で、みんなのために頑張るの！ 制服だね、どうもありがとう！ わたし、組織らしい組織に入ったことがないから、少し緊張しちゃうなあ……。

エフェミ : もしかして、英雄◇◇◇じゃないか！？ ……ああ、やっぱりそうか！ 私、蛮神を倒したあんたに憧れて、ここに志願したんだよ。はは、憧れのあんたから、こうして制服を手渡されるなんてなあ……。俄然、やる気も出るってもんだね。

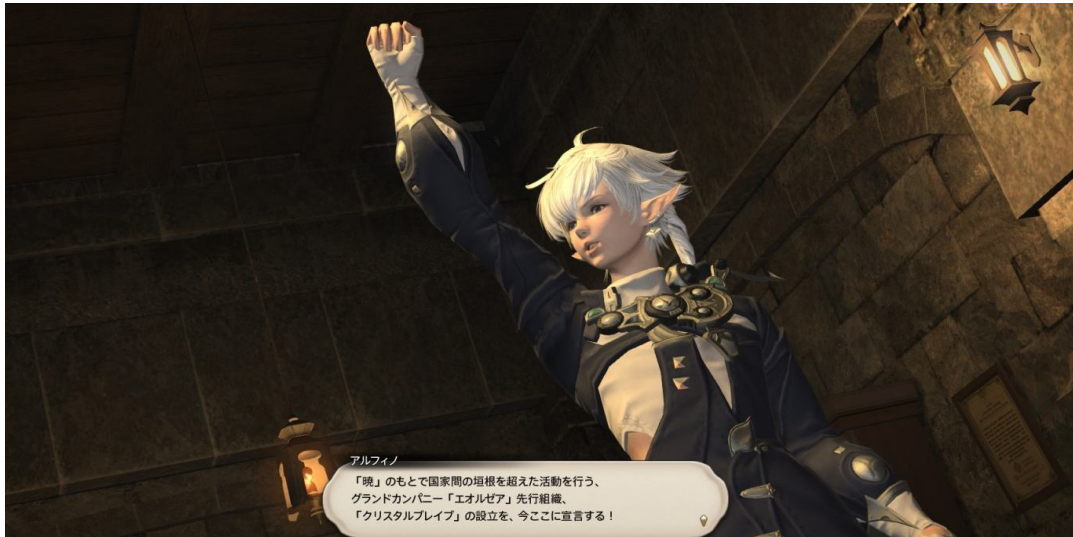
エルグムス : 黒渦団の赤い軍服は、自分の誇りです！ だからこそ、エオルゼアのために立派に働くべく、先行統一組織に入りこみましたッ！ うおおおお……青い制服……ッ！ 今日からは、青い制服も、自分の誇りにします！

イルベルド : ……新しい組織で、隊長に就任予定のイルベルドだ。第七霊災で、妻子と故郷を失くした。長らく塞いでいたが、今日からは平和のために尽くそう……。なるほど、利口な策だ……。同じ服に袖を通せば、他人同士という気はしない。ありがたく頂戴させてもらう……。

ローレンティス : くっそー、こいつら何を見てるんだよ！ 先行統一組織の一員として、何も見えませんとは言えないぞ……！ おっ、制服の支給だね！ なんだか、鬼哭隊に入ったときのことを思い出さなあ……。



アルフィノ： そうか……制服も行き渡ったのなら、準備は万全だ。これで、設立宣言の舞台は整った……。ここまで、ともに尽力してくれて、ありがとう。……おかげで、エオルゼアは新たな一歩を踏み出すんだ。実はもう、組織の名前も考えてあってね。みんなにも、気に入ってもらえるといいのだが。……では、石の家に、志願者たちを集めよう。これより、先行統一組織の設立宣言を執り行なう！ 皆、聞いてくれ。ここに集ったのは、私の思いに賛同してくれた精鋭たちだ！ 我々「暁の血盟」と意思をひとつにし、これからのエオルゼアを護っていくために、先鋒となることを選んだ勇者たちだ！ 「暁」のもとで国家間の垣根を超えた活動を行う、グランドカンパニー「エオルゼア」先行組織、「**クリスタルブレイブ**」の設立を、今ここに宣言する！ あいつぐ蛮神の顕現、蛮族との確執、アウトロー戦区……。エオルゼアを取り巻く危機は、何ひとつ去ってはいない！ だからこそ我々は、先駆けとなって立ち上がる！ 我々は、「暁の血盟」とともに、「エオルゼアの守護者」となるのだ！ すべては、エオルゼアのために！



クリスタルブレイブ隊員一同： すべては、エオルゼアのために！

ミンフィリア： 設立おめでとう、アルフィノ。……いえ、クリスタルブレイブ総帥、アルフィノ・ルヴェユール殿！

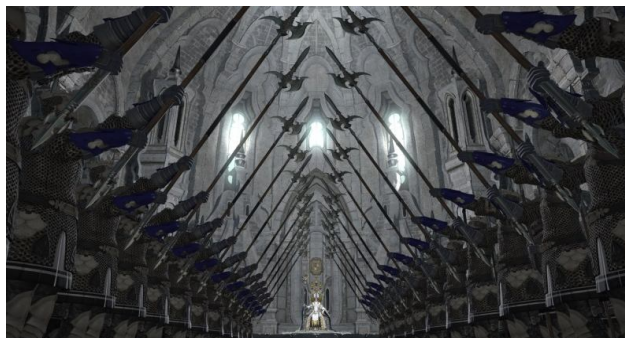
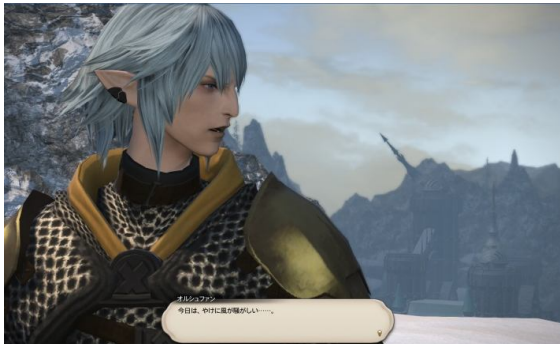
アルフィノ： やめてくれたまえ、形だけの称号だよ。それ自体に何の意味もないさ。  
我々の目的は同じだ。神々に愛されし地、このエオルゼアの救済。……ともに、尽力していこう！

ミンフィリア： ええ、これからよろしくね！

ミンフィリア：「クリスタルブレイド」も動き出したわね。わたしたちも、気を引き締めなおさなきゃ！  
はい、わたしです。  
……やはり、委員会本部は消滅していたのね。でも、島ひとつを消し去るなんていったいどうやって……。  
……それは本当なの！？ 本当にクルルがみつかったのね！？ ああ、よかった……。  
そう、状況は良くないのね……わかったわ。ウリエンジェさんには伝えておきます。  
またあとで連絡するわね。ええ、それじゃ。  
バイルデシオン委員会本部の調査団からの連絡よ。友人が見つかったって……。  
まだ意識は戻らないようだけど、無事でよかった……。  
……消滅したというバイル島の周辺海域から、未知の魔法の痕跡がでたらしいの。  
以前、北ザナランで起きた、古代魔法「アルデマ」の痕跡に近いらしいけど……。……まさかアシエンたちが？  
ガレマル帝国との戦いのあと、マザークリスタル……「ハイデリン」の声を聞いた？  
そう、あなたにも聞こえないのね。……わたしもなの。なんだか、とても嫌な予感がするわ……。  
ルイゾフ様……。どうか、「暁」をお護りください……。



オルシュファン：了解した。物資の手配が整ったのは朗報だな。ふふ、あいつの喜ぶ顔が目につくようだ。  
今日は、やけに風が騒がしい……。





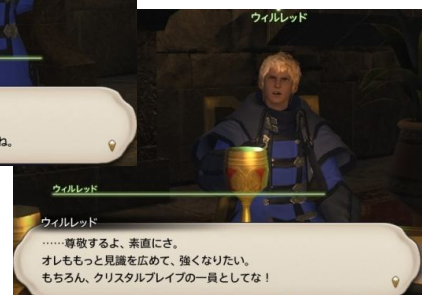
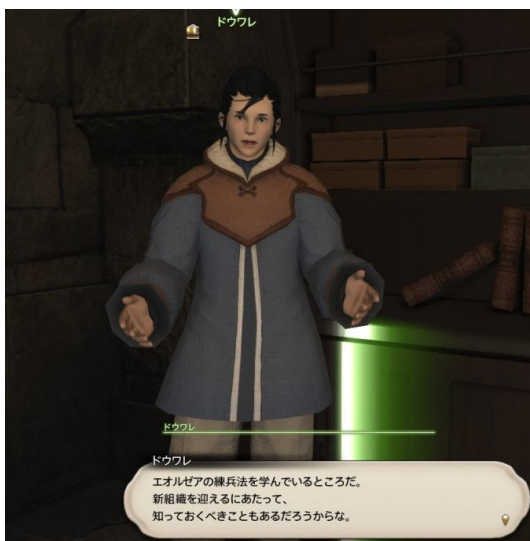
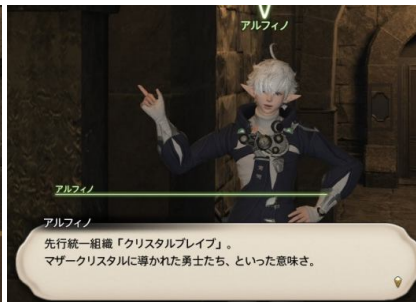
守るために立ち上がる者、壊すために振り下ろす者  
それぞれの意志が、氷結せし大地を揺れ動かす……

——汝にクリスタルの導きあらんことを！

つづく

ミンフィリア：「暁の血盟」が「クリスタルブレイブ」という力を得たことは、同時に、大きな責任を負ったということでもある……。その覚悟をすることは、簡単ではなかったわ。でも、こうして設立された今は、とても心強く思っているの。わたしたちも、気を引き締めて頑張りましょう！

アルフィノ：先行統一組織「クリスタルブレイブ」。マザークリスタルに導かれた勇士たち、といった意味さ。制服の青は、穢れなきクリスタルの色。そこに掲げる「クリスタルの剣」の印は、苦難と戦う者の証だ。いつか、この組織そのものが、人々を導く光となるように……。私もまた、戦い続けよう。





タタル : あわわ……目が回るでっす……！ しっかり準備したつもりなんですけど、名簿に漏れがあって、作り直しでっす……。

ドウフレ : エオルゼアの練兵法を学んでいるところだ。新組織を迎えるにあたって、知っておくべきこともあるだろうかな。

エフェミ : すべては、エオルゼアのために！ ……このモットー、気に入ったよ。  
最初は気恥ずかしかったが、今は誇らしく感じるね。

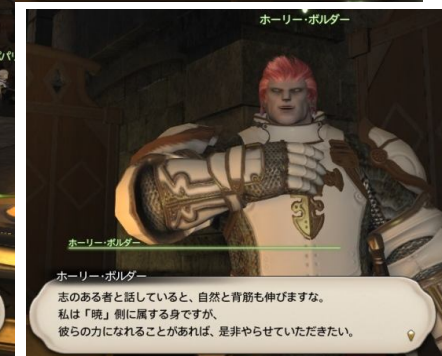
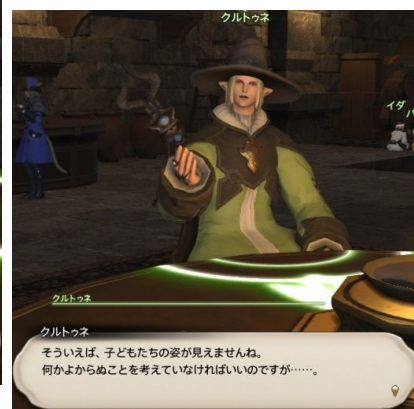
ウィルレッド : お前の名前が集まった奴、結構いるんだな。リトルアラミゴだけでなく、エオルゼア中で活躍してたのか……。  
……尊敬するよ、素直にさ。オレももっと見識を広めて、強くなりたい。もちろん、クリスタルブレイブの一員としてな！

ローレンティス : どうだい、制服姿も見れたものだろう？ ここにくるまでいろいろあったけど、心機一転だ。  
バスカロン親父に名が届くように活躍してみせるよ。

イルベルド : ……どいつも、組織の設立が、よほど嬉しいらしい。俺も感慨深くはあるが、最初の任務を果たしてこそ、  
クリスタルブレイブの存在が認められるというものだ……。

ユコハセ : おつかれさまです。とっととクリスタルブレイブの名を上げて、実入りのいい仕事が集まってくるようにしたいです。

アリアヌ : クリスタルブレイブの設立宣言、ちょっと感動しちゃった。今までたくさん冒険してきたエオルゼア……  
それを守るため、わたしにできることがあるなんて！



クルトウネ : そういえば、子どもたちの姿が見えませんね。何かよからぬことを考えていないか……。

ホーリー・ボルダー : 志のある者と話していると、自然と背筋も伸びますな。私は「暁」側に属する身ですが、彼らの力になれることがあれば、是非やらせていただきたい。

エルグムス : お呼びですか、◆◆◆殿！ 自分、すでに気合ばっちりであります！ すべては、エオルゼアのためにッ！

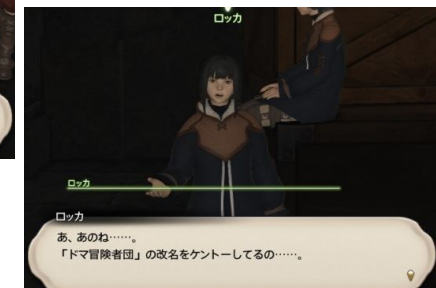
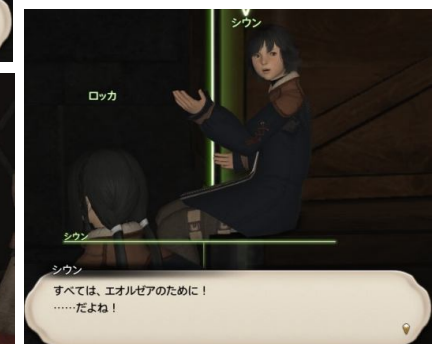
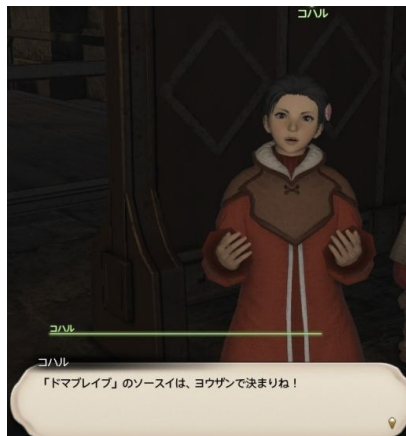
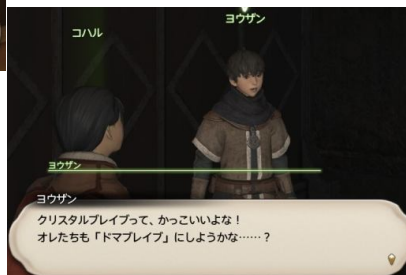
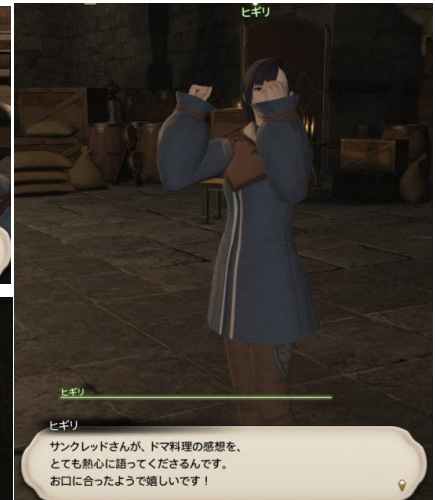
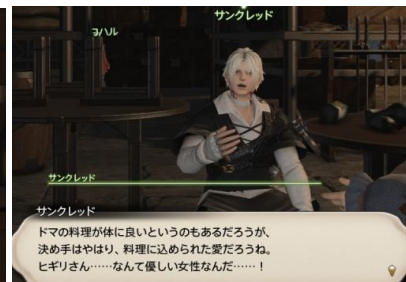
ババリモ : クリスタルブレイブの隊員の名前を挙げていく勝負…… 悪い考えじゃないと思うけど、その前に、タタルの名簿作りを手伝うべきじゃないかな。

イダ : ババリモが、アタシとの勝負を受けてくれない！ 負けるのが怖いんだよ、絶対！

フ・ラミン : サンクレッドさんったら、最近すっかり、ヒギリさんにぞっこんみたい。うふふ……お若いことね……。でも私、悔恨と復讐に生きる女性を増やさぬように……って、ウリエンジェさんから監視を頼まれているのよ。これは、そろそろ……。

サンクレッド : ヒギリさんの手料理を食べるようになってから、体調がすこぶるよくなったんだ。ドマの料理が体に良いというのもあるだろうが、決め手はやはり、料理に込められた愛だろうね。ヒギリさん……なんて優しい女性なんだ……！

ヒギリ : サンクレッドさんが、ドマ料理の感想を、とても熱心に語ってくださいます。お口に合ったようで嬉しいです！



ホウザン : 新たな組織が結成されたそうだな。微力ながら、俺も手伝うつもりだ。

ヨウザン : クリスタルブレイブって、カッコいいよな！ オレたちも「ドマブレイブ」にしようかな……？

コハル : 「ドマブレイブ」のソースイは、ヨウザンで決まりね！

シウン : すべては、エオルゼアのために！ ……だよな！

ロッカ : あ、あのね……。『ドマ冒険者団』の改名をケントーしてるの……。

リオル : 懐かしいねーちゃんを見つけたから、ナイショの情報交換してるのさ。仲間同士に秘密はなし……だろ？

ヤ・シュトラ : リオルの話を聞くにつけ、コボルド族について、知らないことが多いのだと思い知らされるわ。  
海雄旅団の知識、頼りにさせてもらいましょう。

